横越村観光ことはじめ④

沢海地区周辺の環境整備

先月号で(仮)河川博物館について紹介しましたが、今回は横越文化村の中心ゾーンである沢海地区周辺の環境整備について紹介します。

沢海集落の整備

北方文化博物館周辺の沢海の集落は、昔ながらの落ち着いた屋並の形態が維持されており、その魅力は十分観光客を満足させるものがあります。この屋並を住民生活とうまく共存させながら整備して、歩いても楽しめる町づくりを提案しています。

現在は駐車場と博物館を結ぶ点的あるいは線的な整備であるので、町並整備といった視点から面的な整備に広げていきたいとしています。また、「日枝神社」や「大栄寺」、「光円寺」など文化的資源も多く残っており、非常に可能性の高い落ち着いた空間として評価しています。

このモデルとしては、古い町並の中を流れる堀に大きな鯉を泳がせた住民主導型のゆったりとした町づくり観光を目ざす岐阜県の古川町が紹介されています。

河川敷公園構想

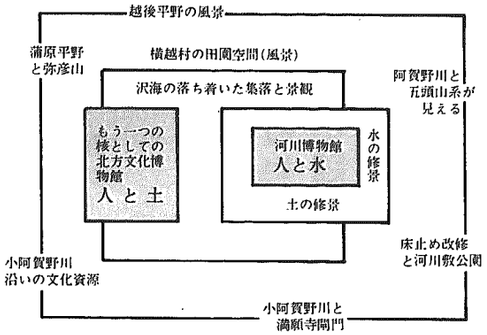
最近は水辺を利用した快適空間の整備が着目されていますが、阿賀野川の大きな魅力を治水上の課題を考慮しながら水辺のレクリエーションゾーンとして横越観光の魅力に取り込むことが重要です。

具体的には、満願寺閘門や床止め周辺を中心として横雲橋にかけての阿賀野川左岸を観光的な整備重点地区として活用することが考えられます。

この上流部分は床止めの改修の話もあり、この計画と整合性を持たせながら広い芝広場、また緩やかな川辺でのカヌー、ボート、水遊びなど水に親しめる水上や水辺の空間を演出したいとしています。

また、対岸の焼山地区には歩いて、または船で渡れるような整備をし、渡った地点にも公園的な空間を作りたいとしています。

横越文化村中心ゾーンの全体空間



親水空間のイメージスケッチ

(整備目標)
水辺の遊びあるいは水上スポーツ、ボート、カヌー、芝広場、野外キャンプ場、農業体験実習室、フラワーガーデン、植物園、休憩施設、水上バス

観光って何？ みんなで考える観光シンポ

村の観光基本計画については広報で紹介しているところですが、村の観光のあり方について、みんなで考え、みんなに関心を持ってもらうため、横越村の観光を考える村民シンポジュウムを企画しています。

観光基本計画にもあるように横越村で今いちばん大切なことは、観光を考えるひとづくりと組織づくりです。横越村が目ざそうとしている観光は、農業を営む人、商工業を営む人、あるいは文化を愛する人達から、横越村の未来を考え、横越を大いに愛し、大いに売出してもらい、地域経済の発展はもとより、地域イメージの向上、そして人と人との交流をも含めた地域全体の活性化であるとも言えます。

先月の二十二日にはこのシンポジュウムがより多くの村民のみなさんから集まってもらい、有意義なものにしようと、観光基本計画策定委員会の座長でもある大熊新大工学部教授を始め、商工会や農協関係者、一般住民の方を交えた企画会議が開かれました。

また、このシンポジュウムを契機に横越村観光協会の設立についても準備中です。

(仮)横越村の観光を考える村民シンポジュウム

とき　10月29日(日)午後
ところ　農村環境改善センター
内容
○講演　(仮)横越村と観光
　樋口忠彦新大工学部助教授
○パネルディスカッション
○アトラクション
　(木津サンバイシ神楽)
　など

胞姫様

九月十五日に川根谷内の妙泰寺で胞姫様のお祭が行われます。胞姫様は源義経が兄頼朝に追われ、奥州落ちの途中、米山峠で子供を無事出産できたことを由来とする安産、子育ての神として近郷近在に知られています。戦前は四月と九月の十五日には新潟や水原から専用バスも運行されたほどで、門前は出店も出て大いに賑っていました。

お産の医学が進んだ現在は当時ほどの賑いはなくなりましたが、今でも子宝に恵まれない人や安産を願う人、子供が健やかに育つようにとお参りする人達が訪ずれています。

＝ 北方文化博物館 ＝
良寛とその敬慕者たちの ―― 作品展 ――
良　寛・安田靫彦・郷倉千靭・こしの千涯・景丘治彌　外

■期間　'89 8月21日～9月20日
■会場　屋根裏ギャラリー
■時間　8：30～17：00

特別会計　昭和63年度 決算見込み

８月号で一般会計の決算見込みをお知らせしましたが、９月号では下水道、国民健康保険、老人保健、工場団地造成の各特別会計の決算見込みについて、お知らせします。（なお、水道事業会計〈企業会計〉は次号でお知らせします。）

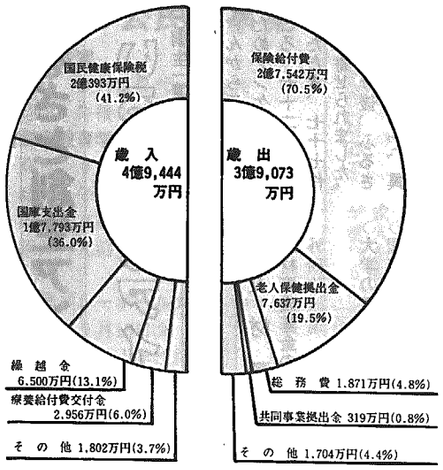
国民健康保険特別会計

一億二三万円繰越

歳出で昭和六十三年度の保険給付費は、昭和六十二年度と比較して六・二％減少しました。

歳入面では、千五百五十四万円の特別調整交付金の交付があったため、全体として医療費の鈍化傾向もあり、繰越金が前年に比較して大幅に伸びました。

ところで、国民健康保険事業は、これからも財政基盤の確立に努力していかなければなりませんが、皆さんにおかれましても日頃から健康づくりに努め、病気の早期発見や上手な受診で、医療費の節約に心掛けるようにしてください。



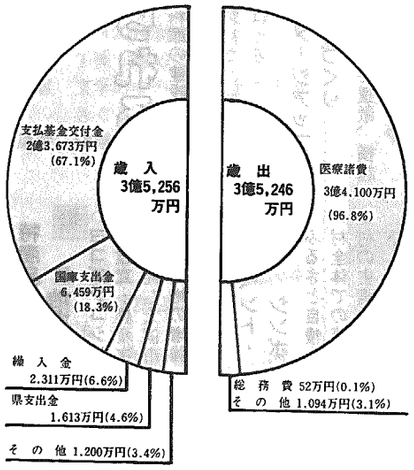
老人保健特別会計

一〇万円繰越

昭和六十三年度は、対象老人の数は十二人増の八百八十二人でしたが、医療費では三億三千九百七十九万円で前年度より四・九％の約千七百万円が減少しました。

その結果老人一人当たりの医療費も約二万円減って約三十九万円になりました。

このように、自らの健康管理に努めるとともに、効率的な受診方法によれば医療費の抑制になります。

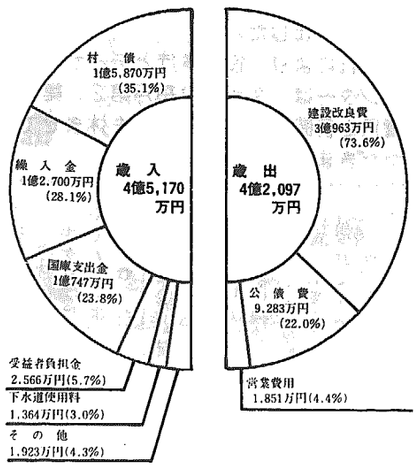


下水道事業特別会計

三、〇七三万円繰越

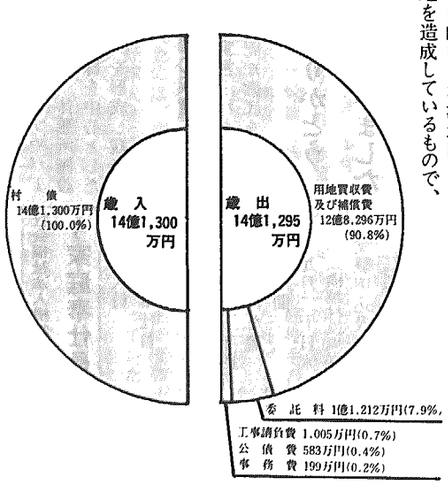
昭和六十三年度は、二本木汚水中継ポンプ場が完成し、待望されていました二本木地区の一部が供用開始することができました。

本村の公共下水道は昭和五十四年度に着手し、この十年間に投下した事業費は約二十三億円で、整備面積五一㌶、処理可能戸数六二三戸、この内水洗化戸数三五六戸で先洗化率五七％となりました。



工業団地造成事業特別会計

特別会計

工業団地造成事業は、雇用の場の確保及び活力ある村づくりを目的に、木津地区に工業団地を造成しているもので、昭和六十三年度においては、用地取得十五㌶とその取得経費、設計料及び附帯工事を実施しました。

なお、歳入については全て村債で充当いたしました。